

2013年12月1日 第22回 川口カップ 会長杯男子決勝戦

【白】F F Fファイヤーズ （以下、F F F）

【青】石神ミニバス （以下、石神）

F F Fは、去年の決勝戦の雪辱を懸け、また、石神は川口カップ初優勝を懸けた戦いとなった。

<第1クォータ>

試合開始、F F F・石神共にディフェンスはマンツーマンディフェンスでスタートした。

立ち上がり、F F Fは、シュートファウルからのフリースローで先取点、その後、石神は、ミドルシュートで応戦してスタートした。

石神は⑤番の高さを生かし、ゴール下を支配。リバウンドからのシュートで得点を重ねる。

それに対しF F Fは、石神⑤番に二人で徹底マークをするも、他のメンバーが着実にアウトサイド・ミドルシュートを決め、得点を重ねていく。

試合は、そのまま石神ペースで進み、6－19で第1クォータ終了。

<第2クォータ>

両チームともに、第1ピリオド同様、マンツーマンディフェンスでスタート。

石神、小柄なメンバー構成にもかかわらず序盤、4点先取。F F F堪らずタイムアウトを請求。

その後、お互いに厳しいプレッシャーから両チーム一步も引かない。石神が16－29で第1クォータの点差をそのままキープして前半を終了した。

<第3クォータ>

後半、F F Fはマンツーマンディフェンス、対する石神は3－1－1のオールコートプレスでスタート。

F F Fは石神⑤番に対し、④番・⑮番が徹底マークで応戦する。対する石神は、④番・⑥番・⑪番が着実に外角のシュートを決める。また、オールコートプレスの厳しいディフェンスからのターンオーバーで、更に得点を重ねていく。

その後も石神ペースで試合は進み16－52で第3クォータを終了した。

<第4クォータ>

最終クォータ始まってからも石神⑤番がゴール下を支配。その高さ、強さに対してF F Fが激しくディフェンスを頑張る。しかし、石神⑤番の強さは揺るがない。徐々に本来のペースを掴んできたF F F。オールコートプレスを突破、また厳しいディフェンスからチャンスを作るも、なかなか得点に結びつかない。それに対し、石神⑤番がオフenseリバウンドからのシュートを中心に得点を重ね、24－68で、石神が川口カップ初優勝を飾った。

F F Fも敗れはしたが、最後の最後まで諦めない気迫は素晴らしいものだった。

両チーム共に、激しいディフェンス、巧みなハンドリング、素早いパスワークなど小学生離れした高い技術が披露され、まさに川口カップの決勝にふさわしい素晴らしい試合となった。

この大舞台の決勝戦で、最後まで戦い抜いた両チームの選手には、心より大きな拍手を送りたい。